

平成18年度

## 第7回 まちづくりシンポジウム

平成19年2月24日（土）午後2時から

共 催 越谷市コミュニティ推進協議会  
越谷市

会 場 越谷市中央市民会館 劇場

# 第7回まちづくりシンポジウム

## 1 開 会

## 2 会長あいさつ

## 3 事例発表

### ① 桜井地区コミュニティ推進協議会

「バリアフリー調査報告」

(発表者 長沼 英雄 氏・橋本 哲寿 氏)・・・1

### ② 新方地区コミュニティ推進協議会

「自然を生かし、安心して住めるふれあいのまち新方を目指して」

(発表者 松島 喜美子 氏)・・・2

### ③ 増林地区コミュニティ推進協議会

「しあわせ部会の活動」

(発表者 土岐 千佐子 氏)・・・4

### ④ 大袋地区コミュニティ推進協議会

「視察研修(体験型)成果報告」

(発表者 荻野 二嵯子 氏・根本 治郎 氏・渡辺 明子 氏)・・・5

### ⑤ 川柳地区コミュニティ推進協議会

「人と緑が輝く川柳環境美化運動の活動報告について」

(発表者 大久保 勝治 氏・坊野 敦子 氏・上坂 邦男 氏

矢島 光明 氏・中村 作治 氏・石川 栄 氏)・・・6

休 憩 (10分間)

### ⑥ 大相模地区コミュニティ推進協議会

「不動橋こいのぼりフェスティバル・ひまわりフェスタについて」

(発表者 石塚 治郎 氏・若井 秀昭 氏

斎藤 久雄 氏・秋山 良雄 氏)・・・7

### ⑦ 大沢地区コミュニティ推進協議会

「福祉部会 活動報告」

(発表者 原田 和子 氏)・・・9

### ⑧ 越ヶ谷地区コミュニティ推進協議会

「越ヶ谷コミ協まつり」

(発表者 会田 容子 氏・田中 征文 氏)・・・10

### ⑨ 南越谷地区コミュニティ推進協議会

「南越谷地区フェスティバルについて」(発表者 白井 俊市 氏)・・・11

## 4 質疑応答

## 5 閉 会



## 南越谷地区コミュニティ推進協議会

事業名	南越谷地区フェスティバル
実施部会	地区コミ協全体
事業目的・内容	<p>(目的) 子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の人たちが集い世代間・住民間の交流を一層深める事で、地域コミュニティの輪(和)とレクリエーション活動の推進及び地域文化の向上を図り、健康で明るい地区づくりを目指すこと。</p> <p>(内容) (1) 主催者事業 ① イベント部門 (南越谷小校庭・地区センター1階) 18日(土)動物バルーン・ウルトラクイズ・地震体験車 19日(日)ガス風船・グランドゴルフホールイワン ・くじつきおたのしみラリー・大抽選会 18日(土)・19日(日) ・ファミリーランド (フワフワくまさん・パターゴルフ・さいころゲーム ・スーパーボール) ・体験講座(伝承遊び・ビーズ手芸・絵手紙) ・フリーマーケット ② 公民館主催講座の発表 (南越谷小校庭・地区センター1階) ・子どもお茶会・子ども太鼓・チアリーダーディング</p> <p>(2) 参加団体自主事業 (従来の文化祭の要素をもった参加団体による事業) ① 展示発表部門 (地区センター2階) ② 出店部門 (校庭) ③ ふれあい・体験部門 (南越谷小校庭・体育館 地区センター2階)</p>
実施日	平成18年11月18日(土)・19日(日)
参加人数	8,000名
効果	<p>・ファミリーランドなど子ども対象事業実施の結果、家族連れの来場者が非常に多く、盛大に世代間、住民間の交流ができた ⇒ 目的を大きく達成!</p> <p>・限られた予算の中で最大の効果をあげるため、自主運営による創意工夫と問題解決への取り組み。 ⇒ コミ協にとって大きな財産となった。</p> <p>・事業拡大に伴う人員確保については各自治会などから沢山の協力を頂き、これまでのように参加団体からの協力だけでなく、地域住民を巻き込んでの実施となった。⇒ フェスティバル進化の第一歩である。</p> <p>・これまでの実績がさまざまに活かされ、フェスティバルが今後“地域のお祭り”として発展する足掛かりとなった。 ⇒ 夢は大きく広がる!</p>

## 平成 18 年度まちづくりシンポジウム発表『南越谷地区フェスティバルについて』

### ●はじめに

南越谷地区コミュニティ推進協議会の白井でございます。私からは南越谷地区フェスティバルについて発表させていただきます。

この地区フェスティバルは、毎年 11 月の土・日 2 日間、南越谷地区センターと、同じ敷地内にある南越谷小学校を会場にして開催しています。

皆さんのお手元の資料の中に、昨年実施したフェスティバルのパンフレットが入っていますので、そちらの方もご覧ください。

### ●フェスティバルの変遷

昨年 11 月の地区フェスティバルは第 8 回目になりますが、その歴史は、平成 10 年まで旧公民館で行われた地区文化祭までさかのぼります。

地区文化祭会場の旧公民館のスペースが狭く、参加団体も少なく、来場者数も減少傾向にありました。そこで、多くの方々に参加していただく地域の祭典とするべく、会場を南越谷小学校に移し、第 1 回の地区フェスティバルを開始したのが平成 11 年でした。

そして平成 14 年には地区住民の念願であった大型公民館・地区センター・愛称「パレット」が開館しました。地区センターの開館によって、同じ敷地内の南越谷小学校を一体的に使用できるようになり、イベントの内容も一層充実させることが可能になりました。

### ●平成 18 年フェスティバルの概要

それでは、第 8 回南越谷地区フェスティバルについて説明します。

#### (目的)

フェスティバルの目的は、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人たちが集い、世代間・住民間の交流を一層深めることで、地域コミュニティの輪をつくり、そして、レクリエーション活動の推進と地域文化の向上を図り、健康で明るい地区づくりを目指すことです。

#### (実施日、会場)

実施日は、平成 18 年 11 月 18 日（土）、19 日（日）の 2 日間、

会場は、南越谷地区センター・公民館と、南越谷小学校校庭・体育館です。

#### (レイアウト)

会場のレイアウトです。

#### (事業の構成)

フェスティバルの事業は、主催者による事業と、参加団体による自主事業で構成しています。

#### (主催者による事業)

主催者による事業のうち、コミ協イベント部門は、ファミリーランドをはじめたくさんのイベントを行いました。その様子をご覧ください。



ファミリーランドのフワフワくまさんは、お子さんたちには大変好評でした。  
大抽選会の会場は、賞品の旅行券や掃除機、自転車などを期待して熱気につつまれました。  
フリーマーケットは、事前申し込みによって、1日1区画500円の協賛金を頂戴し、出店していただきました。

イベント部門では、この他に、くじつきお楽しみラリー、グラウンドゴルフ、ガス風船の配布、バザー、なども行われました。

#### （公民館主催講座の発表事業）

主催者事業では、公民館が生涯学習を目的に開催している講座の発表も行われました。

#### （参加団体自主事業）

参加団体による自主事業には、まず展示・発表部門があります。地区公民館を拠点に活動しているサークル、団体、個人が成果発表の場として、作品展示や舞台が行われました。展示・発表部門は、以前の文化祭の要素をもっています。その様子をご覧ください。

出店部門は、地区内の自治会やさまざまな団体によって模擬店など、物品の販売が行われました。その様子をご覧ください。

この他にも、綿菓子、カレーライス、などの販売が行われました。

ふれあい・体験部門は、スポーツ、遊びなどを通して世代間・地域内の交流を深めるものです。その様子をご覧ください。

### ●企画・運営

今までに7回実施してきた地区フェスティバルですが、第8回目を開催するにあたり、地区コミ協ではまず、企画・運営について、今までどおりでよいのか、新しい方向にするのか、全員で検討しました。

その結果、従来は、実行委員会を組織してきましたが、今回は、コミ協事業として企画・運営することにしました。これまでの経験によって、すべて自分たちの手でできると判断したことと、メンバーがあまり変わらない組織の重複を避けよう、との考えなどがあったからです。

フェスティバルのテーマは、「広げよう地区フェスティバルで地域の輪（和）」としました。

そして、世代間交流を進めるために、多くの集客を望める主催事業の企画を充実させることとし、イベント部門を設置することにしました。

南越谷地区コミ協は、福祉、環境・衛生、防災、広報・文化、総務の5つの部会で活動していますが、この5つの部会がそれぞれにフェスティバルの各部門を担当しています。

新たに設置するイベント部門については、防災、広報・文化、総務の3つの部会が担当するという横断的な組織としました。これによってイベントに関し、たくさんのアイデアが出るという効果が現れました。

今回、イベントの数を増やすことにしましたが、その分、人手の不足が生じます。そのため、コミ協会員選出母体、家族、友人など地区内に幅広く声をかけ、協力委員の増員に努めるとともに、参加団体の役割分担を明確にし、実施計画を事前に周知徹底することによって対処しま

した。

コミ協会員、協力委員、参加団体の三者の手によって、事前準備、PR、会場の設営、例えばフリーマーケットや模擬店の場所の区割り、駐輪場・駐車場の管理にいたるまで、ありとあらゆることを全てこなしました。

今回は特に、PRにも力を入れました。ポスターは、各自治会などを通じて事前に各所に掲示してもらいました。

フェスティバルの案内を、公民館報に掲載して各戸配布しました。

コミ協だよりの特集号も、各戸配布しました。

各自治会や参加団体などに事前にプログラムの配布も行いました。

フェスティバル実施のための予算ですが、本来の予算としては地区まちづくり助成金の25万円だけです。参加団体個々の事業運営は、それぞれの団体の資金に任せるにしても、この金額では、主催事業として大きなイベントを行うことは無理です。

そのため、以前から大抽選会の賞品に充当するため、抽選前売り券を各自治会に購入してもらっていましたが、これに加え今回は、ファミリーランドのお遊び券を販売するなど、収入増加に努め、その結果、フワフワくまさんなどのイベント内容の充実が図れました。

#### ●フェスティバルの効果、今後の方向

今回の地区フェスティバルを振り返りますと、ファミリーランドなど子供を対象としたイベントを実施した結果、家族づれの来場者が大変多く、フェスティバルの目的である世代間・住民間の交流ができたと考えます。

今回の来場者数は、2日間で8,000名です。初日は天気に恵まれましたが、二日目は午後から雨になりました。それでもこれだけの人数を記録しました。グラフの来場数を見ていただくと、2回目以降では最高となっていることが分かります。

地区コミ協としては、限られた予算の中で、最大の効果をあげるために、自分たちでできることを共に考え、そして自主運営によって実行しました。

自分たちで創意工夫し、問題があればその解決に取り組めるようにもなりました。これはコミ協にとって将来への大きな財産になるものと思います。

また、今回のフェスティバルでは、イベントを拡大しましたが、そのために多くの人手が必要となりました。必要な人員確保については、各自治会などから全面的な協力をいただきました。

皆様ご承知のように地区コミ協は、自治会連合会をはじめとする多くの団体で構成されている組織です。地区コミ協を構成する団体のたくさんの方々に協力をいただいたことにより、フェスティバルが一層盛り上がったと思います。

参加団体だけでなく、地域住民を巻き込んでの実施は、フェスティバル進化のための第一歩と考えます。これまでの実績の積み重ねがさまざまに活かされ、フェスティバルが今後、地域のお祭りとしてもっと、もっと、根付いていくようになればと、夢はますます広がっていきます。

以上で南越谷地区からの報告を終わります。ご静聴ありがとうございました。